

2月8日

# 「切り札」通信禁物

## ワクチン接種開始

# 高い有効性でも収束に年単位

国内での接種がようやく始まった新型コロナウイルス感染症ワクチン。非常に有効性が高いとされる。ただ、接種が広く行われ、感染者収束して「日常生活」に戻るには年単位の時間がかかるとの見方が強い。対策の緩みは再流行にもつながりかねず、専門家からは懸念の声も上がる。

### △低リスク

十七日に医療関係者への先行接種が行われた東京医療センター（東京都目黒区）。接種第1号となつた新木一弘院長は記者会見で

「全国で先駆けてコロナ対策の切り札の先行接種が始まつた」と切り出した。「注射はあまり好きではないが、痛みがなくてほつとした」と笑みを浮かべた。

接種が始まつた米ファイ

ザー製のワクチンは臨床試

験で発症を防ぐ有効性が95

%で、発症リスクが二十分の一になる計算だ。有効性が20~60%程度とされるい

る。

△医療の通じ緩和

医療従事者の先行接種を経て、六十五歳以上への優

ンフルエンザワクチンよりも非常に高く、専門家は驚きと期待を持って受け止めている。

副反応はファイザー製の場合、臨床試験で注射部位

の痛みが約84%、頭痛が約

55%、発熱が約15%にみら

れた。日本感染症学会理事長の館田一博・東邦大教授

は十六日の衆院予算委員会

で、接種が進む海外の状況

を踏まえ「受け入れられる程度の副反応だ」と説明した。

△医療の通じ緩和

医療従事者の先行接種を経て、六十五歳以上への優

先接種が始まるのは四月から。一回の接種を終えて一般の人まで進むのは六月下旬以降となる可能性がある。社会に広く行き渡らせるためには、契約供給量の確保とともに、接種を担う医療機関の体制を確保することが大前提となる。

厚生労働省に新型コロナ

ウイルス対策を助言する専

門家組織は十一日、緊急事

態宣言が継続する中で「新

型コロナの診療と通常の医

療との両立が困難な状況が

続いている」と分析。接種

業務を請け負う余裕を確保

するためにも、国立感染症

研究所の脇田隆字所長は

「新規感染者を抑えて医療

の逼迫を緩和する」と必要

だと強調した。

新規感染者数は減少傾向

にあるが、政府の新型コロ

ナ感染症対策分科会の尾身茂会長は「減少のスピードが少しずつ緩慢になつてゐる」と懸念を表明。接種に注力できるほど感染者が十分に減るのは予断を許さない状況だ。



ナ感染症対策分科会の尾身茂会長は「減少のスピードが少しずつ緩慢になつてゐる」と懸念を表明。接種に注力できるほど感染者が十分に減るのは予断を許さない状況だ。

△2年は対策を世界で接種が始まつてから二ヶ月。免疫がどれくらい持続するかはまだ分かつていい。社会全体が流行から守られる集団免疫についても、世界保健機関(WHO)は今年中の獲得には否定的な見方を示した。そのため多くの専門家は、拡大防止対策を続けることが重要と指摘する。

変異株の動向にも注視が必要だ。ワクチンの効果は英國で広がっている株に大きな影響はないとする見方が強い。だが国内で少なくとも十一例見つかっている南アフリカ由来の変異株については、大東文化大の中島一敏教授は「ワクチンで得られる免疫が少ないとの報告がある。どの程度影響が出るのかを注意深く見ていくべきだ」と話す。

今後について、国際医療福祉大の和田耕治教授は「接種が進んでいけば、次の冬は今季よりは安心して過ごせるような状況が期待される」とする。一方で「接種が始まつても、二年間は地域での流行は続くと考えた方がよい」と指摘。「少なくとも一年ぐらいいは、現在のような感染対策が必要だ」と長期的な対応を訴えた。

(1)医療従事者	
2月17日 先行接種(4万人)	・同意を得た全国100医療機関の従事者
から	・うち2万人に安全性調査
主に3月 コロナ診療に関わる医療従事者	
中旬以降 (370万人)	・医師、看護師、救急隊員、保健所職員
(2)高齢者(6500万人)	
4月以降	・2021年度中に65歳以上になる人
(3)基礎疾患がある入院・通院中の入(620万人)	
・慢性の呼吸器、心臓、腎臓、肝臓の疾患	
・糖尿病	・重症心身障害
・免疫機能が低下する病気(がんを含む)	
・睡眠時無呼吸症候群	
・BMI30以上の肥満	
(4)高齢者施設などの従事者(200万人)	
60~64歳の人(750万人)	
(5)16歳以上の人	

\*①~⑥は接種順位  
労省の資料などを基に作成

注射器に吸引される新型コロナウイルス感染症ワクチン=17日、東京都目黒区の国立病院機構東京医療センターで(代表撮影)

